

令和7年度 地域連携推進会議 報告書

開催日時：令和7年12月15日(月) 10:00～12:30

開催場所：富門華

出席者：知見を有する者 A様

行政関係者 B様

地域住民代表者 C様

ご家族 D様

当事業所職員 施設長 戸田(司会)／副施設長 広川

議事内容： 自己紹介

1. 地域連携推進会議の目的
2. 令和7年度事業計画
3. 運営状況
4. 質問、助言など
5. 施設内見学
6. 利用者昼食試食
7. 意見交換

1. 地域連携推進会議の目的、役割

地域連携推進会議は、利用者と地域との関係作り／地域の方への富門華と利用者の方々に関する理解の促進／サービスの透明性と質の確保／利用者の権利擁護。

※ 地域の方に施設を見に来てもらう事は、利用者の権利擁護にも繋がりますし外部の目が入る事で、今まで気づかなかった事を気付かせてくれる機会にもなる。

2. 令和7年事業計画の説明

- ・事業計画自体、毎年同じような内容となるヵ所があるが、一年一年を大切に取り組んでいく。
- ・利用者年齢構成～平均年齢58,7歳。
- ・障害区分～区分6が多く、89名中74名が区分6。
- ・食事単価～グループホームに比べ若干高めの設定となっている。
- ・職員状況～非正規職員が正規職員を上回っているが、非正規には洗濯職員・調理職員が多く入っている。非正規職員の最年長は74歳。
- ・職員組織図～長く勤務してくれる職員が増えてきている。

3. 運営状況

・令和7年度収支予算書の説明

令和6年に報酬改定があり、国は地域移行推進を強化している事から入所施設の収入減となるのではと考えていたが、サービス報酬・各加算があり余剰金が出ている。ただ、職員不足が深刻であり職員を採用しそこに余剰金を当てていきたい。

・年間電気使用量／年間重油使用量の説明

4. 質問、意見

A 様：旧施設の数名部屋から個室になり、利用者はどうだった。

戸 田：・1人部屋になり自閉症の方などは部屋で落ち着いて過ごすことが出来る。多部屋だと同室者のテレビがうるさいなどの事がある。

・逆に、ざわついている所や職員の声のする場所が好きな利用者は、食堂などで過ごしている。

・感染症がひとつのユニットで完結できるようになっている。

・一方で、ユニット別になった事で男女の交流が少なくなってしまった。男性利用者からも、女性利用者との交流がなくなり又女性職員がユニット内に居ない事への不満もでてきている。

A 様：日中活動もユニットで完結しているのか

戸 田：・通所や椎茸作業科はユニットをまたいで合同で行っている。他のリハビリ活動などはユニット完結となっている。ただ、余暇活動でユニットをまたいでカラオケを行う事がたまにある。

・雪まつりなどが無くなり、地域交流の場がなくなっておりビューティーサポート(花壇整備)など、地域に出れるとよいと思うが限られた職員数の中でこのような活動への参加は難しい状況である。

戸 田：人員不足を補う為、今後外国人労働者も考えている。

D 様：利用者に不安がでてくるのでは。中々難しいのでは。

戸 田：現在、外国人を教育し福祉現場に就職を斡旋する専門業者があり、就職後もその企業がサポートを行ってくれるので、安心。

B 様：先日の地震で被害は。

戸 田：胆振東部地震の時に比べると、耐震がしっかりしている事もあってか揺れは小さく感じた。ただ、エレベーター1基は停止しスプリンクラーの警報が鳴った。

戸 田：将来的に、地震などの災害時富岡地区の高齢者の一時避難場所として考えている。

B 様：福祉避難所は2次的になると思う。一次は緊急的なもので、その後の生活困難者の避難場所となるのでは。事前に協定などを作ると縛りが出てくるので、その時々で協議して決めていく方が良いと思う。

D 様：早来町内で福祉避難所が必要となる可能性がある方はいるのか。

B 様：療育手帳A所持の方は4名いる。

B 様：スマイル4ビートなどは地域との交流を行っているが、その他で小学生などとの交流は行っているのか。

広 川：早来の小学生が通所部で疑似体験などを通じた交流を行っている。

戸 田：本体施設も、グループホームなのはどのように町内に出て行けると良いのだが、中々出来ない状況。

C 様：お祭りや富門華文化祭などの地域との交流の場が無くなってしまっている。

B 様：現在町史を制作中で富門華史をお借りしているのだが、昔は色々な行事があったのだと思った。高齢化が進むと大きな行事ができなくなるのは仕方がない。

戸 田：利用者の高齢化と重度化により職員の勤務体制も細くなり又職員数も足りなく、出来なくなっている行事が多くなっている。

B 様：富門華のユーチューブは、オンラインを使った交流という意味では良いと思う

戸 田：富門華として発信しているので、どこまで発信してよいのかが今ひとつ分からず、現在個人的に職員が制作しているが今後は広報委員会を立ち上げそこで制作していく予定。

4. 施設内見学

C 様：居室の窓が大きく明るい感じがした。

B 様：旧施設とは一新した感じで、廊下なども広く明るくなった。

A 様：リビングも明るい感じがした。

C 様：個室になって良かったと思う。

戸 田：建て替え時、「自分がここに住める」と言える施設にしたいと思っていた。床が汚れていた。

C 様：掃除のパートなどを雇えないのか。

戸 田：なかなか人が集まらない現状で。その為、年に数回ダスキンに委託している。

戸 田：利用者の服装や職員の利用者に対する声掛けなどはどうでした。

C 様：服を破ってしまう人もいたので、仕方がないと思う。

戸 田：服を新しいものにする事自体がストレスになる利用者もいるので、何とも言えない。

B 様：部屋の名札は個人情報の観点からどうなのだろう。

戸 田：当初、職員が利用者個々の部屋を覚えられないので、という事があったので。今後、検討していく。

※本日の昼食を一口ずつ試食してもらう。

C 様：食器は厚みがあり良かった。

戸 田：食洗器で洗えるように厚くなっている。

C 様：ブロッコリーが美味しかった。

A 様：お正月に帰省する利用者は。

戸 田：今は少なくなってきた。施設でお正月を過ごす利用者が増えている分、お正月の少人数で行っていた行事も難しくなってきた。